

## 旭川地区U-15トレセン1勝3敗で遠征を終える。

### 旭川市・水原市少年サッカー交流事業

旭川市・水原市少年サッカー交流事業は8月30日に旭川市を出発。9月2日の帰着までに4試合を戦いました。韓国国内での全国レベルのチームとの対戦もあり、1勝3敗に終わりましたが、国際交流を行うことができました。

平成19年8月30日(木)～9月2日(日) 水原市

### 第1戦

#### 旭川市中学生選抜2 - 0 栗田中学校

得点者

澤田(1分), 宮崎(12分)

スタートから集中していた旭川はCKを福井がヘッドで折り返したところを澤田が押し込み先制。旭川は徳広、鷹橋を中心に中盤でボールを支配し前線に供給するが、縦への単調な攻めが多く、サイドから崩すことができない。それでもOF陣がなんとかボールにからみ中央で小出と宮崎の二人で相手を崩し、宮崎が追加点を決める。徐々にSBの八重尾、澤田がボールにからむようになり、サイド攻撃が増えるがラストパスの精度を欠き得点を追加できない。後半、栗田中学校も右サイドを起点に攻めるも庄末、福井のセンターバックが落ち着いて対処する。その後も旭川は中盤を支配するが、単調な攻撃が続き、逆に攻め疲れてしまい、簡単にボールを奪われる場面が多くなりピンチをまねく。運動量が落ちた時にどういうサッカーをするのが課題として残る試合となった。

### 第2戦

#### 旭川市中学生選抜1 - 2 水城中学校

得点者 鷹橋(32分)

両チームとも中盤での激しいプレッシャーから主導権を握ろうとするが、水城中学校のボール支配率が徐々に上回り、旭川は押し込まれて下がってしまい、そのあいたスペースをうまく使われてしまう。OF陣も前でキープしてタメをつくりたいところだが、激しいプレッシャーに潰されてしまう。まさに防戦一方の展開となり、27分にはサイドを崩され、中央でフリーになった選手に先制点を奪われる。その5分後旭川はゴール前で小出が倒されPKを獲得。鷹橋が落ち着いて右隅に決めて同点に追いつく。前半は圧倒的に相手のポゼッションが上回る苦しい展開となる。

後半は中盤を厚くするため4-4-2のシステムから3-5-2のシステムに変えスタート。しかし中盤でのボールの奪われ方が悪く、相手に追加点を奪われる。運動量で上回る相手は簡単に旭川のDFラインの裏のスペースにボールを配給してくる。旭川はフレッシュな選手を投入し反撃を開始したが、相手の体をはったDFを崩すことができずにタイムアップ。相手の技術、体力ともに旭川を上回っていた。課題としては決定力不足やラストパスの精度、ボールを簡単に奪われすぎということが挙げられる。

### 第3戦

#### 旭川市中学生選抜0 - 4 南水原中学校

お互い相手の出方をうかがうゲームの入りだったが、南水原中のGKからのロングボール一発に、旭川のDFが振り切れ先制点を奪われる。その2分後、サイドからのセンターリングをなんとかクリアするも、こぼれ球に反応した相手MFにミドルシュートを決められ、引き離される。前半14分には、1点目とまったく同じ形でゴールを奪われる。南水原中のFWの選手は、前線のボールをもらう前のかけひきが上手く、常にDFの裏を狙ってくる。旭川は相手の素早いアプローチにボールをキープすることができず、攻撃らしい攻撃をさせてもらえず前半終了。

後半、南水原中は、全員メンバーチェンジ。旭川は前線でタメをつくるために、徳広をトップに上げる。その効果が出始めたのは、後半12分、徳広が中央でタメをつくり、FWの中田にスルーパスを通すが、惜しくもポストに当たりゴールが奪えない。そして、DFがルーズに下がったスペースが使われ、追加点を奪われてしまう。結果的に自分たちのサッカーを何もさせてもらえないままタイムアップ。それほど南水原中の技術、スピード、フィジカルは旭川を上回っていた。

### 第4戦

#### 旭川市中学生選抜1 - 3 三一中学校

得点者 鷹橋

ダイレクトプレーを効果的に使い、テンポのよい攻撃を仕掛けてくる相手に対して、旭川は、サイドを起点に攻撃してCKを得る。そのこぼれ球を鷹橋が落ち着いて右スミにシュートを決め先制する。しかし、すぐに中央をドリブル突破され、フリーでシュートを決められ同点に追いつかれる。その後、前線でパスを回される苦しい展開だったが、体をはった旭川のDF陣が追加点を許さない。均衡が崩れたのは、前半の残り2分だった。旭川のゴール前での混戦からこぼれたボールを相手にひろわれ、ミドルシュートを決められ、逆転を許してしまう。

後半、旭川はFWの中田と海田を走らせ、裏のスペースをねらうが、単調な攻撃となり、得点を奪うことができない。運動量が落ちてきた旭川に対して、三一中学校は、シンプルにサイドのスペースを使い、旭川DF陣をサイドに引っ張り出し、フリーで中央からシュートを打ってくる。48分には、右サイドを突破され、中央に入ったセンターリングをフリーでシュートされ3点目を奪われる。最後まで全力で走りきった相手に対して、旭川はやはり走れなくなってしまった。結果として、相手の技術が旭川を上回っており、中盤を支配することができなかった。そのため、全体的に下がってしまい、カウンターでしか攻撃することができなかった。

## 旭川地区U-14・U-13トレセンアベック優勝を飾る。

### 道北ブロックトレセン交流会

9月29日(土)と30日(日)の2日間、道北ブロック主催のトレセン交流大会が神居の杜サッカー場で行われました。旭川地区はU-13とU-14の2つのカテゴリーで優勝を飾りました。また、9月8日・9日には日高で北海道トレセンが行われ、旭川地区から9名が参加しました。北海道トレセン(9/8~9/9)

### U-13リーグ戦表

	旭川	道北	空知	網走	北空知	勝点	得点	失点	差	順位								
旭川		2 0-0 2-1	1	6 5-0 1-0	0	2 0-1 2-0	1	10 6-0 4-1	1	12	20	3	17	1				
道北	x	1 0-0 1-2	2	x	2 1-3 1-1	4	x	0 0-3 0-3	6	3 2-0 1-0	0	3	6	12	-6	4		
空知	x	0 0-5 0-1	6	4 3-1 1-1	2		2 1-1 1-1	2	6 2-0 4-0	0	7	12	10	2	3			
網走	x	1 1-0 0-2	2	6 3-0 3-0	0	2 1-1 1-1	2		6 3-0 3-0	0	7	15	4	11	2			
北空知	x	1 0-6 1-4	10	x	0 0-2 0-1	3	x	0 0-2 0-4	6	x	0 0-3 0-3	6		0	1	25	-24	5

### U-14リーグ戦表

	旭川	道北	空知	網走	北空知	勝点	得点	失点	差	順位							
旭川		1 0-0 1-0	0	3 3-1 0-0	1	0 0-0 0-0	0	3 2-0 1-0	0	10	7	1	6	1			
道北	x	0 0-0 0-1	1	x	2 2-1 0-4	5	x	0 0-5 0-3	8	3 3-1 0-2	3	1	5	17	-12	5	
空知	x	1 1-3 0-0	3	5 1-2 4-0	2		1 1-1 0-0	1	1 0-0 1-0	0	7	8	6	2	3		
網走	0 0-0 0-0	0	8 5-0 3-0	0	1 1-1 0-0	1		7 5-0 2-0	0	8	16	1	15	2			
北空知	x	0 0-2 0-1	3	3 1-3 2-0	3	x	0 0-0 0-1	1	x	0 0-5 0-2	7		1	3	14	-11	4

### 参加選手

- U-14  
G K喜多集世(広陵中学校)  
M F山内琢磨(啓北中学校)  
M F山根健志(忠和中学校)  
F W越智伸之(愛宕中学校)  
U-13  
G K畠山裕紹(北門中学校)  
D F猪川智博(緑が丘中学校)  
D F大平純輝(明星中学校)  
M F田中伸明(東光中学校)  
F W山本真司(永山南中学校)





## コンサドーレ旭川が全道制覇の偉業を達成！ 第19回全道ユース(U-15)サッカー選手権大会

第19回全道ユース(U-15)サッカー選手権大会兼高円宮杯第19回全日本ユース(U-15)サッカー選手権大会北海道大会に出場していたコンサドーレ旭川ユースU-15は決勝に進出し、全日本ユースへの出場権を得ました。そして、決勝でもSSSジュニアユースを山室の得点で1対0の勝利。平成4年の広陵中学校以来15年ぶりに旭川地区に優勝をもたらしました。

### 決勝 9月23日(日) 札幌アミューズメントパーク コンサドーレ旭川1-0(0-0)SSSジュニアユース(カブス2位)

得点者 山室(69分)

コンサ GK宮崎 DF越川, 大沼, 河本, 宮本恭  
MF山室, 山田陽, 小澤, 山田海, 前田 FW石岡

交代/F P大野(石岡: 35分) 山下(小澤: 49分)

記録 SH CK FK OS GK PK

コンサ 6 1 10 1 5 0 (SH シュート OF オフサイド)

SSS 1 3 7 7 9 0

試合内容の詳細はコンサドーレ札幌オフィシャルホームページの中のプログ(スタッフプログ: 旭川U-15)をご覧ください。



### 準決勝 9月22日(土) 札幌アミューズメントパーク コンサドーレ旭川2-0(0-0)コンサドーレ札幌(カブス1位)

得点者 大野(48分), 阿羅(66分)

コンサ GK宮崎 DF:越川, 大沼, 河本, 宮本恭

MF山室, 山田陽, 小澤, 山田海, 前田 FW石岡

交代/F P山下(前田: 25分) 大野(石岡: 35分)

前田: 再出場(山田海: 41分) 阿羅(小澤: 60分) 那須(山室: 69分)

### 準々決勝 9月17日(月) 土別市天塩川サッカー場 コンサドーレ旭川6-1(2-0)浦幌中(帯広地区代表)

得点者 石岡(13分), 前田(31分), 大野(44分), 小澤(52分), 山下(67分), 金山(69分)(コ)

失点(54分)

コンサ GK宮崎 DF越川, 大沼, 河本, 宮本 MF山田陽, 小澤, 前田, 山室  
FW石岡, 山田海

交替/F P大野, 山下, 阿羅, 志摩, 河原, 金山, 西垣, 那須

### 2回戦 9月16日(日) 土別市天塩川サッカー場 コンサドーレ旭川6-4(1-1)札幌ジュニアFCユース(札幌地区代表)

得点者 山田海(31分), 小澤(39分, 56分), 河本(42分), O・G(62分), 阿羅(64分)(コ)

(25分), (63分), (69分), (69分)(札)

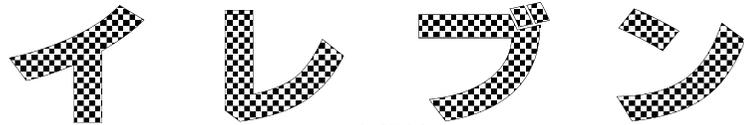
コンサ GK宮崎 DF越川, 大沼, 河本, 宮本 MF山田陽, 小澤, 前田, 山室  
FW石岡, 山田海 交替/F P大野, 山下, 阿羅, 志摩, 河原, 金山, 西垣

【戦評/則末(啓北)】

序盤から両チームともコンパクトなラインを保ち、互いに中盤でスペースを消し合う。札幌JrはMFを起点にFWのポストプレーやワンツーパスから、コンサDFラインの裏を積極的に狙う。コンサは両サイドバックの裏へ出されたボールを、越川、宮本が相手のスピードに手こずりながらも、体を寄せ何とかしのぐ。GK宮崎もDFラインの裏をよくカバーし、ピンチを防ぐ。開始直後こそ、札幌Jrの両サイドに河本らがフィードし、前田、小澤が飛び出して攻勢に出たコンサだが、中盤での相手の出足が勝り、ポゼッションできずに苦しい展開をしいられる。札幌JrFWの動き出しも早く、DFラインも後手にまわることが多く、コンサはなかなかリズムをつかめない。中盤で山田陽や山室がボールを受けようとするものの、厳しいプレッシャーにあい、なかなか前を向いてプレーできない。札幌Jrは厳しいプレッシャーをしかける分、ファウルが多くなり、しだいにコンサはセットプレーから活路を探る。しかし、そのセットプレーも長身の に制空権を握られ、はじき返される。攻めの形が見つけられなかったコンサだが、セットプレーを重ねるうちに、リズムをつかみ出す。FWの石岡、山田海にくさびのボールもわずかが入り始め、ボールの支配率が高まるようになる。そんな中、25分にコンサは思わぬ失点をする。コンサのパスをインターセプトした相手MFが左足で30mのミドルシュートを決める。しかし、この1点にもコンサは慌てることなく、試合を進めた。28分には、ペナルティエリア左外のFKを前田が石岡に合わせるがわずかにタイミングが合わない。徐々に相手陣内でプレーする機会が多くなったコンサに対して、札幌Jrの対応が遅れ始め、ゴール付近でのFKが多くなる。31分コンサは28分と同じような位置でFKを得る。これを前田がファーポストに送ると、FW山田海が流れながら鮮やかなヘッドをゴールに突き刺し同点に追いつく。さらに33分にはCKの混戦から小澤がゴールに迫るが、これは相手GKがゴールライン付近で何とか押さえる。序盤こそ札幌Jrの速いつぶしに苦戦したコンサだが、次第にラインを高く保てるようになり、セットプレーからチャンスを作る。開始直後は不安定だったDFラインも河本、大沼が修正し、カバーリングもよくなり、札幌Jrにつける隙を与えなくなる。



後半も中盤を支配できるようになったコンサは、山田陽、前田から山田海、小澤へのくさびのボールが出るようになる。後半から出場のMF大野がスペースへフリーで進出しチャンスメーカーとなる。39分コンサは、波状攻撃のセカンドボールをDゾーンやや右で拾った前田がゴール前に進出した小澤にパス。フリーの小澤が右足を振り抜くと、ゴールはきれいに左隅に吸い込まれ逆転に成功する。勢いに乗るコンサは41分、中盤での前田が絶妙のスルーパスを大野に送る。大野はスピードを落とさずにペナルティエリアに進出し、相手DFを突破にかかったところをトリッピングのファウルを受けPKを得る。このPKを河本が冷静に決めて貴重な追加点をあげる。前半に飛ばしすぎたからか札幌Jrの中盤のプレスは甘くなり、右の大野の縦への突破、左の山下の中への切り込みから次々とチャンスが作り出される。中盤でボールを拾う頻度も、山田陽、山室を中心にぐんと高まり、完全にゲームを支配する。56分には山田陽が中盤で相手DFを次々とかわし、ブルアウェイで外側に開いたFW小澤にパス。ゴールに向かって小澤はペナルティエリアに入り、右足で豪快なシュートを突き刺し駄目押しの4点目を奪った。攻撃の手を緩めないコンサは62分、志摩の右サイドからの折り返しが流れたところを山下が中へ切り返し、鋭いセンタリングを送ると相手のO・Gを誘い5点目。63分に札幌Jrに1点を返されるが、64分、山下が右からドリブルで突破しペナルティエリアに進出。折り返したボールを阿羅がつめて6点目を奪う。その後、DFに集中を欠いたコンサは2点を失ってしまうが、6対4で勝ち明日の準々決勝へと波に乗る勝利を収めた。



# コンサドーレ旭川が全道制覇の偉業を達成！ 第19回全道ユース(U-15)サッカー選手権大会

第19回全道ユース(U-15)サッカー選手権大会兼高円宮杯第19回全日本ユース(U-15)サッカー選手権大会北海道大会は、9月15日に士別市天塩川サッカー場などで開幕。旭川地区代表のコンサドーレ旭川ユースU-15は札幌常磐中学校に8対0で快勝。留萌中学校は、健闘しましたがLIV.FCに1対2で惜敗しました。

1回戦 9月15日(土) 士別市天塩川サッカー場

## コンサドーレ旭川8-0(5-0)札幌常磐中(札幌地区代表)

得点者 前田(3分), 宮本(5分), 石岡(21分, 22分), 山田海(28分), 山下(36分), 大野(46分, 59分)

コンサ GK宮崎 DF越川, 大沼, 河本, 宮本 MF山田陽, 山田海, 前田, 山室 FW石岡, 小澤 交替/F P大野, 山下, 阿羅, 志摩, 金山, 河原, 西垣

### 【戦評/則末(啓北)】

開始早々からボールを支配するコンサドーレ旭川は、トップギアで札幌常磐ゴールに迫る。山室, 山田陽が中盤を組み立て、左の前田のサイドから崩しにかかり、FW石岡がゴールに迫る。3分、左へ回り込んだ山室のパスを受けた前田が中へ数歩ドリブルし、意表をつく35mのシュート。これがバーに当たってゴールインする鮮やかなゴールとなり、コンサは幸先のよい先制点を奪う。続く5分にはDゾーンでボールを受けた石岡が左サイドのオーバーラップした宮本に落とすと、宮本は角度のないところからセンターリング気味のシュート。ボールはGKの頭上を越え、ゲームを楽にする2点目を奪う。コンサはFW石岡にボールが収まり、そのポストプレーを基点に宮本, 前田の左サイドから何度も崩す。常磐中も、のトップに長いボールを入れ、攻めの糸口を探るが、河本, 大沼のCBが判断のよいインターセプトで相手の攻撃を遮断する。コンサも早々と2点を奪ったことで、ペースダウンしていたが、21分前田のパスを受けた石岡がワンタッチで前を向き、ねらいすまして右足インサイドでゴール右下にけり込み3点目をあげる。さらに22分には山田海のパスを受けた石岡が左足でシュートを決め4対0とする。28分にも宮本が左サイドを突破、低いクロスを入れると山田海が左足で巧く合わせ5点目を奪う。前半はDF越川, 河本の正確なサイドチェンジからサイド攻撃を繰り返したコンサが圧倒的に攻め、5点のリードを奪った。



後半もボール支配率に勝るコンサの一方的なゲームが続く。36分には越川がハーフウェー付近からクロスを入れると、走り込んだMF山下が相手DFをかわして右足でシュートを決め6点目。後半もサイドチェンジを多用し、両サイドから攻撃を組み立てるコンサドーレが何度もシュートチャンスをつかむ。右サイドからは交替出場した志摩と阿羅がゴールライン深くまで進出。左サイドからは宮本と山下が攻め込む。46分には山室がFW大野にパス。後方からのボールを巧みにトラップした大野が右足で7点目を奪う。ゴールラッシュの締めくくりも大野。59分右サイドをドリブル突破し、8点目のゴールを奪った。試合開始早々からトップギアで相手を圧倒したコンサドーレ旭川が圧勝で2回戦へと進んだ。

## LIV.FC(札幌地区代表)2-1(0-1)留萌中

得点者 (36分), (56分)(L)吉田幸(30分)(留)

留 萌 GK佐藤 DF里見, 中土井梨, 生出, 渡瀬 MF吉田幸, 斉藤, 神田, 千葉 FW伊藤, 吉田拓 交替/高田

### 【戦評/則末(啓北)】

開始早々から左サイドの を中心にスルーパスから突破を図るLIV.FC。開始30秒で左サ

イドの突破がシュートに結び付く。このシュートはGK佐藤が好セーブではじいたものの、相手FWに詰められ先制点を許したと思われたがオフサイドに救われる。このピンチをしのいだ留萌は里見, 生出のCBが落ち着きを見せ始める。しかし、吉田幸, 吉田拓はボールにこそよくからむものの、いい状態でボールを受けられないため、攻撃の形を作れない。そんな中、一つのプレーが流れを変える。9分相手DFのボールを奪った吉田拓が、単独でゴールに迫りあわやという場面を作る。このプレー以降出足のよくなった留萌はボールの奪取率も高まる。ただLIV.FCのカウンターに対してカバーリングの意識が足りなく、ぎりぎりのところでのGK佐藤, 生出らが守備する。その一方で攻撃では、吉田幸が前を向いてプレーする機会が多くなり、千葉, 神田のサイドからも形になるようになる。FW伊藤もボールをよく収め、2列目に落とし、攻撃のアクセントを作る。両チームともサイドのディフェンスにスペースが生まれ、サイドの破り合いになる。29分には右サイドを破った千葉からのパスを受けフリーの神田がシュート。ゴールを割るが惜しくもオフサイドの判定となる。しかし、その1分後吉田拓の左からのクロスに斉藤が中央で競り、こぼれたところを吉田幸が流し込んで先制点を奪う。LIV.FCディフェンスラインのバランスの悪さについて攻勢にでた留萌が先制点を奪った前半を終了した。



後半開始早々LIV.FCは猛攻にで、留萌は苦しい戦いをしいられる。キックオフ直後ゴールエリア内の至近距離からのシュートこそGK佐藤がはじき返すが、36分DFのギャップに走り込んだMFへの対応が遅れ左足でゴール右上へ同点ゴールに決められる。同点ゴールによって、勢いがでたLIV.FCは球離れがよくなり、オフ・ザ・ボールの動き出しの速さから留萌のDFのギャップに次々と走り込みチャンスをつかむ。MF, FW が再三突破からチャンスをつかむ。GK佐藤がピンチを何度も救うセーブを見せ、何とかしのぎ、試合は膠着状態に入る。しかし、56分LIV.FCはFW がダイアゴナルランでペナルティエリア内に進出し逆転ゴールを奪う。このゴールで再び攻勢にでるLIV.FCに対して留萌は反撃の糸口をつかめない。61分にはPKのピンチを迎える。このPKがバーに当たって、ピンチを逃れる。終盤は神田や吉田拓が何とかドリブルで突破を図ろうとするが、攻撃に厚みがなく、同点ゴールを奪うことができなかった。しかし、留萌地区から今年度2つの大会で準優勝を果たした留萌中学校の湧刺として、ひたむきなサッカーは、旭川地区の代表としてふさわしいものであった。

